

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
センター長	南谷 かおり
副センター長	増田 大作
非常勤医員	馬場谷 美知子
応援医師	葛城 有希子
看護師	張 岩
保健師	岩岡 文夏
兼検査科主査	川本 英子
兼検査料	藤本 ひかる

—概要—

健康管理センターは常勤医員2名(南谷医師・増田医師)、非常勤医員1名(馬場谷医師)に加え、応援医師1名(葛城医師)、看護師1名(張看護師)、保健師1名(岩岡保健師)、臨床検査技師(検査部より派遣)2名、および医療マネジメント部1名、事務員3名にて業務を行っている。昨年度システム導入、検査室開室により検査の効率化と受診者の負担軽減が可能となった。対応可能なものとしては、従来の人間ドック、脳ドック、乳がん検診などに加え、協会けんぽや特定健診などの各種健診業務をできる限り受け入れている。その他、指定航空身体検査(パイロット健診)、睡眠時無呼吸症候群の簡易スクリーニング、アミノインデックスがんリスクスクリーニング検査および事後の精密オプション検査、市民大腸がん検診や骨粗鬆症検診、アレルギースクリーニング検査(MAST36)を実施している。

人間ドックは完全予約制で月・水・金曜日であったものを、今年度から火・木曜日にも受診可能とした。脳ドックはそれに加えて土曜日に頭部MRI・MRA検査を行っている。人間ドック受診後、面談による結果説明を行い、精査・治療が必要な場合は一般外来へ院内紹介を行っている。外国人ドックも昨年同様に設定、訪日外国人旅行者を対象とし中国語に対応、診察・検査には通訳を付けている。検査結果報告書は日本語・中国語の両方で作成し画像を添付し受診者の理解につなげている。アミノインデックスがんリスクスクリーニング検査も継続して受注し、当院での二次精密検査につなげ、有所見者は院内の各専門科に紹介している。

特定健診、後期高齢者医療健診および企業検診など各種健康診断は平日の午前中、泉佐野市民検診である骨粗鬆症検診は平日の午後、市民乳がん検診は日曜日に年6回、乳がん検診セットは平日の午後にそれぞれ予約制で行っている。指定航空身体検査は金曜日の診察を含め検査日を別途設け実施している。睡眠時無呼吸症候群の簡易スクリーニングは当院循環器内科における睡眠時無呼

吸専門外来へ紹介しCPAP治療への橋渡しが可能となっている。特定健診受診後、保健指導対象者となった受診者には、初回の保健指導を後日の実施だけでなく、健診当日にも指導を行うようにし、生活習慣の改善によるメタボリックシンドロームの発症予防をめざしている。いずれも有所見者は当院外来での治療につなげ、発症予防に貢献している。その他、被爆者2世健診、海上保安庁、消防署、関空の検疫所等の職員の健診、就学時・就職時健診、企業の職員およびそのご家族の健診等を行っている。

—実績—

2020年1月から急激に増加したCOVID-19感染の蔓延及びそれに伴うインバウンド顧客の消滅は健康管理センターに大きな影響を与えた。緊急事態宣言に伴う受診者の著明な減少が見られ、外国人ドックは皆無となった。その状況でも厚生労働省通達や病院の判断に沿って感染予防対策を行い、受診者の健康チェック、検査室のソーシャルディスタンスの確保や什器類の利用ごとの消毒を行った。その結果職員と受診者のいずれにも感染の発生は見られなかった。2020年度の健康管理センター利用件数は、延べ2161件で昨年の2,466件から減少となったが、内訳は表に示す通りで、人間ドックは特に影響が大きく、逆に健康診断や航空身体検査が増加していた。

健康管理センター利用件数

	2019年度	2020年度
人間ドック・脳ドック	839	653
オプション脳ドック	170	110
企業健診・一般健診	705	803
特定健診・後期高齢者健診	148	109
特定健診保健指導	50	46
乳がん検診(市民・自費)	177	108
被爆者健診	38	23
骨粗鬆症検診	66	61
一般予防接種・抗体検査	18	24
指定航空身体検査	39	65
外国人専用健診・ドック	13	0
アミノインデックス検査 (検査後の精密検査を含む)	131	74
睡眠時無呼吸スクリーニング	39	31
大腸がん検診	19	37
アレルギースクリーニング	12	17
女性外来	2	-
合計	2,464	2,161

—今年度の成果と反省点—

文字通りCOVID-19に振り回された1年となった。準備したインバウンド需要は消滅した。しかし、通達や学会ガイド

ラインや病院規定、さらに適宜最新情報を入手して感染防御に努め、結果として一人も感染者を出さなかったことは職員の努力と受診者の協力の賜物で感謝すべきと考えている。健康診断での受診増はあったが主たる収入源であるドックを大幅に失ったことによる全収益の減少は痛手であり、更なる地道な努力が必要であることを痛感した。継続して人間ドック受診者の獲得と感染対策の両立に努めるべきと考えている。また、外国人専用健診についてもインバウンドの再開に伴い感染防御の観点を疎かにすることなく対応できるよう準備を進めたいと考えている。

### —来年度への抱負—

感染防御の必要性は当分継続すると考えられるが、地域の健康管理の要としての存在は変わりはない。今回の経験を生かして、さらに受診者の増加に対応しうるシステムを確立し、人間ドックの充実や当院独自の健康診断をさらに広げたいと考えている。COVID-19の変異株の出現もあり見通しが立たない状況にはあるが、このような中でも地域の需要に対してしっかり応えていきたいと考えている。

